







1.1. 肉用牛・酪農

現状と課題	目指すべき姿
<p>高齢化等で農家戸数が減少する中、規模拡大が進展しており、省力化及び生産性向上に資する技術導入が必要。</p> <p>特に、分娩間隔の短縮と事故率低減は喫緊の課題であり、ICTの活用による効率的な個体管理の充実を進める必要がある。</p>	<p>分娩間隔の短縮による生産性向上や事故率低減による損耗防止及び搾乳・哺乳作業の省力化</p>

作業	導入する技術とその効果	必要経費	
交配管理	 <p>発情発見装置 兼 疾病兆候発見装置</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発情兆候を見逃さず、確実な受胎による分娩間隔の短縮 R元 県平均 395日 優良事例 345日(50日短縮) ・スマホへの通知により、畜舎不在時でも発情発見通知による把握が可能。PC等で効率的な個体管理も可能 	<p>繁殖牛50頭 初期投資75~150万円、ランニングコスト1.5万円/月 (親機25万円、利用料3,000円/月。子機3万円/個、月額利用料180円/月・個+通信費)</p>
	 <p>分娩管理機器</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・疾病兆候の早期把握による死亡事故、廃用事故の減少 ・事故率低減による損耗防止により子牛の発育改善 	<p>乳用牛120頭 初期投資250万円 ランニングコスト2万円/月</p>
損耗防止	 <p>分娩管理機器</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・分娩監視装置により、確実な分娩看護を行い、難産による分娩事故を削減することが可能 ・分娩開始時間を把握し、分娩看護を行うことにより、難産時の獣医師への早期通報が可能 	<p>繁殖牛50頭 初期投資80万円、ランニングコスト2万円/月 (親機20万円、子機10万円、センサー4万円/個、子機(分娩用)6,800円、(発情用)4,300円、システム利用料月額3,500円+800円×センサー数+通信費)</p>
分娩管理	 <p>搾乳ユニット自動搬送装置</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・搾乳ユニットの自動搬送による軽労化と搾乳時間の短縮による省力化 (搾乳時間50%削減、歩行距離50%削減) ・搾乳回数が増えるため、乳量が増加 	<p>乳用牛120頭 搾乳ロボット (ボックスタイプ) 3,000万円 搾乳ユニット自動搬送装置 1,500万円</p>
搾乳	 <p>搾乳ユニット自動搬送装置</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・代用乳の調製・哺乳・哺乳瓶の洗浄等の人工哺育に係る労力の削減 ・代用乳の希釈濃度・哺乳量の調製ができ、哺乳子牛に合わせた管理が可能 	<p>繁殖牛50頭 250万円</p>
哺乳	 <p>哺乳ロボット</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・代用乳の調製・哺乳・哺乳瓶の洗浄等の人工哺育に係る労力の削減 ・代用乳の希釈濃度・哺乳量の調製ができ、哺乳子牛に合わせた管理が可能 	<p>繁殖牛50頭 250万円</p>